

# Program Note

## パンチネッロ～ロマンティック・コメディへの序曲～（アルフレッド・リード作曲）

吹奏楽界の巨匠、アルフレッド・リードによって、1973年に作曲された。ちなみに、リードの楽曲で最も有名と思われる「アルメニアンダンス・パートⅠ」が作曲されたのは、前年の1972年である。

楽曲は、急＝緩＝急の三部形式。冒頭、若干唐突に、モチーフが提示される（譜例1）。このモチーフが各所に散りばめられながら、曲は、かわいらしく、軽快に、そして、ときに滑稽に進む。シンコペーションを伴ったリズムが面白い。華やかな盛り上がりの後、まるで夢の世界に誘われるかのように中間部へ。

中間部は、ゆったりとしたテンポで、まさにロマンティックな展開。どこか懐かしさを感じさせるメロディ（譜例2）が、ホルンによって奏でられてから、何回かの転調を伴いつつ、様々な楽器によって織り重ねられていく。

ファゴットが中間部の終わりを告げると、冒頭のモチーフが、調を変えて示される。再び軽快な展開。変拍子、シンコペーションの応酬と、色鮮やかなヴァリエーション。中間部のメロディも再現され、吹奏楽らしい華やかな響きによる総奏で曲が終えられる。

曲名の主題にあるパンチネッロとは、イタリアの道化芝居（人形劇）に登場するキャラクターとのこと。曲の中にも、パンチネッロの人形劇の中での動き、あるいはパンチネッロの内面（こころの移ろい）を描写したと思われる部分が各所に現れる。思うに、「ロマンティック・コメディへの序曲」という副題には、この楽曲のコンセプトと魅力とが端的に表われている。序曲の「つづき」は曲には起こされていないものの、これから始まるであろう、素敵な物語を想像させる要素が詰め込まれている。

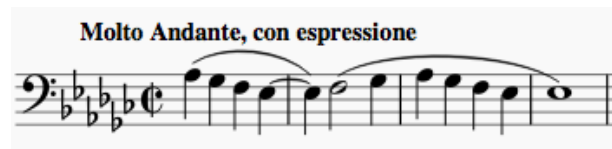
「パンチネッロ」による幕開けが、演奏会にとって、そのようなものとなりますよう。

（宮森）

（譜例1）



（譜例2）



## ていーだ（酒井格作曲）

陸上自衛隊第一混成団音楽隊へ委嘱され、2009年に初演された楽曲。酒井が沖縄を訪れて同音楽隊と交流した際に受けた印象——とりわけ、沖縄の美しい海と悲痛な歴史——に基づいて作曲され、沖縄方言で太陽を意味する「ていーだ」と名付けられた。

構成は、序奏とコーダを含む三部形式である。序奏では、曲全体のモチーフが中低音楽器群によって提示される。このモチーフは、変イ長調の琉球音階を構成する5音（As-C-Des-Es-G）で作られており、これによって冒頭から沖縄独特の世界観が浮かび上がる（譜例）。

（譜例）



主部の Allegro は、リズムックで快活なメロディが印象的で、沖縄の爽やかな景観を想起させる。対照的に、中間部では幻想的な雰囲気がテナーサックスの甘美なソロによって導かれる。コーダでは、沖縄の伝統的舞踊「カチャーシー」を想起させる音楽が Vivace のテンポで展開され、大団円を迎える。

（小西）

## ピータールー序曲 (マルコム・アーノルド作曲)

1968年、イギリス労働組合会議の創立100周年を記念して作曲された。「ピータールーの虐殺」という、マンチェスターで1819年8月16日に起きた政治事件を題材としている。この日、マンチェスターの聖ピーター広場で開催された、平等な政治参加を求める民衆の集会在、武装した当局によって解散させられた。この騒動の中で、少なくとも11名が死亡し、負傷者は数百名に及んだ。

曲は、事件のプロットに沿って進行していく。冒頭のAndanteでは、平和な集会の様子が美しい旋律で表現されるが、当局の到来を告げる打楽器によって不穏な空気に覆われると、「虐殺」を表現する中間部へとなだれ込む。ここでは、通称「悪魔のコード」と呼ばれる減五度の和音や、十二音技法が用いられ、混沌が描写される。再現部では、冒頭の旋律が走馬灯のように奏でられる。この旋律は次第に活力を帯びてMaestosoへと成長し、勝利の凱歌としての様相を呈していく。最後は、まるで政治的平等を目指した民衆の死を無駄にしないと暗示するかのようになり、未来の世代へ希望が託されるかたちで幕を閉じる。

実は、ピータールーが「虐殺」であったかは、一概には断定しづらい。「虐殺」という呼称は事件当時の被害者側（政治改革の支持者）が打ち出したプロパガンダであり、他方では、都市当局が武力革命を未然に阻止した「栄光的勝利」と考える人々も少なくなかった。このためピータールーをどう記憶するか（記念碑を建てるべきか否か、その文言は、等）を巡って、学界・民間を問わず議論が重ねられてきた。近年では、被害者の救助記録がユネスコ記憶遺産に登録されたことや、事件発生200周年が間近に迫っていることによって、「虐殺」の記憶をめぐる議論が一層活性化していると言える。このような歴史の流れを考えた時、この楽曲もまた、音楽という形で刻まれたピータールーの記憶に他ならない。

(小西)

## 交響詩「魔法使いの弟子」 (ポール・デュカス作曲/マーク・ハインズレー編曲)

フランスの作曲家ポール・デュカスの代表作。1897年にパリで初演されて以降、現在でも多くのオーケストラで演奏されている。ミッキー・マウスが魔法使いの弟子役を演じたディズニー映画「ファンタジア」(1940年公開)に使用されていることでも有名。曲は、ドイツの文豪ゲーテの詩“Der Zauberlehrling”を題材としており、あらすじは以下のとおりである。また、曲中に登場する4つのキャラクターには、それぞれテーマが与えられている(譜例)。

偉大な魔法使いの師匠から掃除を命じられた魔法使いの弟子は、師匠の留守中にほうきに呪文をかけて桶に水を汲ませる。調子に乗った弟子は、ほうきにどんどん水を汲ませるが、水汲みを止める呪文を知らないため、桶から水が溢れてしまう。慌てた弟子は、ほうきを2つに折る。一瞬の静寂が訪れるが、今度は2本のほうきが水を汲み始めてさあ大変!家中が水浸しになってしまった。そこにとうとう師匠が帰宅。師匠の呪文で全てが元に収まるが、弟子は大目玉を食らう。

(岩尾)

(譜例1) 水の主題



(譜例2) 弟子の主題



(譜例3) ほうきの主題



(譜例4) 呪文または師匠の主題



# Program Note

バレエ組曲「火の鳥」1919年版 (イーゴリ・ストラヴィンスキー作曲／ランディ・アールズ編曲)

作曲者のストラヴィンスキーは、1882年、裕福かつ教養のある両親のもとに生まれた。家には図書館並みの蔵書があり、幼い頃からロシア民話に親しんでいたという。サンクトペテルブルク大学法学部へ入学したが、音楽への情熱を捨てきれず、リムスキー＝コルサコフのもとで作曲と管弦楽法を学び、作曲家としての実力を着々と育んだ。

1910年に作曲された『火の鳥』は、『ペトルーシュカ』『春の祭典』と並ぶ、ストラヴィンスキーの三大バレエの一つと称される。ただし、当初批判も少なくなかった後者の2曲に対し、『火の鳥』は文句なしの絶賛を博し、弱冠27歳の彼をヨーロッパ楽壇へと押し上げる出世作となった。今回演奏する組曲は、作曲家本人が演奏会用組曲として1919年に編曲した版に基づく。以下では、1919年版を構成する7つの楽章を、バレエの題材となったロシア民話『火の鳥』のあらすじに沿って紹介する。

## 1. 序章

主人公の少年イワンは、ある日狩りに出かけた際、森の奥深くで黄金の実のなった魔法の木を見つける。この森は、実は魔王カスチェイの庭だった。

低音群の八分音符と木管の静けさを破るような動きが、減五度と短二度の組み合わせで表現され、不気味な森の雰囲気印象付ける。

## 2. 火の鳥の踊り / 3. 火の鳥のヴァリエーション

イワンが魔法の木を見つめていると、光を放つ火の鳥が突如現れた。縦横無尽に駆け巡る火の鳥を、イワンは興味本位で捕まえる。しかし、火の鳥が助けを求めたため、イワンは解放してやる。このお礼として、イワンは火の鳥から黄金の羽をもらう。

高音木管による技巧的なパッセージを通じ、火の鳥の羽ばたきや鳴き声が幻想的かつユーモラスに表現される。

## 4. 王女たちの Rond

その後イワンは、王女たちが黄金の実を投げ合って遊んでいる場面に出くわす。王女たちは驚いて、このことが魔王カスチェイに見つかると石にされてしまうと心配する。しかし最も美しい王女ツアレヴナとイワンは、魔王の影を恐れることなく恋に落ちる。

ロシア民謡調の美しいメロディが様々な楽器のソロによって演奏される。中でも楽章冒頭で奏されるオーボエの甘美なフレーズは、つかの間の安らぎを与える (譜例1)。

(譜例1)



## 5. 魔王カステイの踊り

突如魔物たちが現れ、カステイの呪文によって王女たちは石にされてしまう。カステイはイワンにも魔法をかけようとするが、イワンが黄金の羽を振りかざすと火の鳥が飛んできてイワンを助け、魔力で魔物たちを踊らせる。

前楽章の静寂を切り裂くかのような完全五度の *sfff* (スフォルティッシッシモ) で始まる。金管や打楽器が効果的に駆使された荒々しい楽章で、全編を通じて最も強烈である。

## 6. 子守唄

疲れ果てた魔物たちは深い眠りに落ちる。この隙に火の鳥はカステイの魔力の源である卵のある場所をイワンに示す。目を覚ましたカステイはイワンに襲いかかるが、間一髪でイワンはこの卵を砕くことに成功する。哀愁を帯びた民謡調の旋律が、ファゴットによって切々と歌いあげられる。後半では、木管楽器群による神秘的な和音が並べられ、徐々に H-dur へと収束していく。

## 7. 終曲

卵が砕かれたことによってカステイと魔物たちは消え、石となっていた王女たちも元に戻る。イワンはツアレヴナとめでたく結婚し、喜びのうちに幕を閉じる。

天からの囁き声かのような暖かいホルンのソロによって始まる (譜例 2)。同じフレーズが複数の楽器によって反復され、エネルギーが増幅してゆく。ラストは金管を中心とするトゥッティで、祝福のファンファーレが高らかに奏でられる。

(小西)

(譜例 2)



次回演奏会のお知らせ

### 吹奏楽団 La Foresta 第 3 回定期演奏会

2019 年 9 月 1 日 (日) 杉並公会堂 大ホール

公式 HP [laforesta.web.fc2.com](http://laforesta.web.fc2.com) Twitter @htwoobogwe Facebook @吹奏楽団 La Foresta

皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

また、当楽団の母体である現役大学生楽団の演奏会へも、ぜひ足をお運びください。

### 一橋大学津田塾大学吹奏楽団 第 42 回定期演奏会

2018 年 12 月 9 日 (日) 杉並公会堂 大ホール

指揮：花坂義孝 (上野の森プラス) ほか

曲目：ハンガリー民謡「孔雀」の主題による変奏曲 ほか